

御正忌
報恩講

お齋とせば

精選料理



ご法要を締めくくる伝統のお膳

仏教では「食事」と呼ばれる、午前十時から正午までの間に食事をする習わしがあり、このときの料理を「齋」といいます。

本願寺では、御正忌報恩講法要をお勤めする期間、通常非公開の国宝書院（鴻之間）にて、おおむね江戸時代から変わらぬ食材を用いた伝統の精進料理を、朱塗りの什器やお膳で召しあがっていただくことができます。

一月十日から十五日まで、日中法要終了後にこのお齋のご接待をおこないますので、ご参拝の折にぜひご賞味ください。



お気軽にお問合せください

申込方法

期日 ● 2020(令和2)年

1月10日(金)～15日(水)

時間 ● 1回目 日中法要終了後

● 2回目 12時～

※時間は人数等により前後する場合があります

場所 ● 鴻之間(国宝)

懇志 ● お一人、1万円以上

受付 ● 2019(令和元年)

12月2日(月)より

● 電話・FAX・龍虎殿受付
カウンターにてお申込



御正忌報恩講のお齋でしか味わうことのできない「鞍掛饅頭(くらかけまんじゅう)」

全席椅子席

貴重な文化財である鴻之間で、僧侶が本願寺や書院の歴史に触れながらお齋の由来を説明いたします。また、配膳などのご接待をされるのは、本願寺御用達商である開明社社員の方々です。

報恩講 (ほうおんこう)

報恩講とは、宗祖親鸞聖人のご遺徳を偲び、そのご苦勞を通じて、阿弥陀如来のご本願によるお救いをあらためて心に深く味わわせていただく浄土真宗で最も大切な法要です。

親鸞聖人の三十三回忌のご法要にあたり、本願寺第三代宗主覚如上人がそのご遺徳を讃仰するため『報恩講私記』を制作され、以来、聖人のご命日の法要は報恩講として、大切にお勤めされています。

一年にこの時期だけの機会！
国宝の大広間で伝統のお膳



国宝 鴻之間